

またしても雨の中の観察会です。でも9月になっても続いていた厳しい残暑はようやく落ち着き、聞こえてくるセミの声もツクツクボウシだけになりました。途中から雨は上がり、たくさんの生きものに会いました。

中道沿いのアベマキに最近スズメバチが来ているとの情報があり、確認するとやはり1頭のオオスズメバチがいましたが巣があるわけではないようでした。草はらのシマスズメノヒエの穂にはナナホシテントウが来ていました。テントウムシに詳しい参加者から穂の麦芽を食べていると説明がありました。1頭のキタテハがやってきて参加者の手のひらにとまり、よく見ると口吻を伸ばして汗を吸い取ろうとしているようでした。



オオスズメバチ



シマスズメノヒエの麦芽にきた
ナナホシテントウ



口吻を伸ばす
キタテハ

昆虫好きの少年がウスバキトンボを捕らえました。トンボに詳しい少年からこれは渡りをするトンボで、産卵して世代交代もするが、寒さに弱く越冬することができないため定着はしていないと説明されました。続いて捕らえたオオシオカラトンボについてはシオカラトンボとの違いとしてオオシオカラトンボの顔が黒いことが紹介されました。足元の草むらにお腹の太いメスのヨモギエダシャクがとまっていた。写真を撮るためにとまっている草を動かしてもあまり動かさず、お腹が重いせいで動きが悪いのではと予想しました。



ウスバキトンボ



オオシオカラトンボの顔



ヨモギエダシャク

つどいの丘ではコオロギを探しました。子どもたちに「コオロギを捕まえて」と声をかけると器用に次々と捕まえていました。エンマコオロギはほかのコオロギに比べると体が大きいのでわかりやすく、その他のコオロギは顔を見て同定されていました。その結果ツツレサセコオロギが最も多く捕らえられていました。



コオロギを探す



エンマコオロギ



ツツレサセコオロギ

せせらぎ沿いにアメリカタカサブロウの花が咲いていました。その場では在来種のタカサブロウとの区別がわかりませんでした。あとで調べると実の特徴などから南米原産のアメリカタカサブロウとわかりました。またその近くにはミントが群生しており、葉をちぎって匂いを嗅ぎ、さわやかな香りを楽しみました。この日も盛んに鳴き声が聞こえて来ているツクツクボウシですが、近くの木の幹で複数の抜け殻が見つかりました。



アメリカタカサブロウ



ミント



ツクツクボウシの抜け殻



少し時間をかけてツククサを観察しました。ツククサの莖についている半円状の袋は「苞^{ほう}」と言い、開くとこれから咲くつぼみや終わった花や実が収納されていました。苞から出た花が咲き終わると再び苞に取り込まれるとのことでした。別の苞を観察すると2つ花が咲いているものあり、花の中にはめしべがみられるもの(両性花)とめしべが見当たらないもの(雄花)とがありました。苞の先に不思議な模様の卵がついたものがあり、調べるとタケカレハの卵とわかりました。タケカレハは幼虫や繭に毒があり、残念ながら飼育には向かないようです。



ツククサの苞(ほう)の中



ツククサの花(左が両性花)



タケカレハの卵

水辺でヒメタイコウチが見つかりました。セミの仲間の昆虫であること、愛知県では準絶滅危惧種に指定されているが東山の森では普通に見られること、水生昆虫の仲間だが水の中ではおぼれてしまうことなどの説明を聞きました。その近くのクズの葉の裏に大きなイオウイロハシリグモが隠れていました。葉を裏返してもあまり動かず、よく見ると卵嚢を抱いているのがわかりました。中道の南側にはシロバナマンジュシャゲが咲いていました。ヒガンバナの色違いかと思っていましたがそうではなく、ヒガンバナの雑種という見方が定説のようです。



ヒメタイコウチ



イオウイロハシリグモ



シロバナマンジュシャゲ

ナンバンギセルを見に行きました。長い間姿を消していたものが1年ほど前にたまたま見つかったものです。去年よりもたくさんの株が見つかりましたがもう少し風が通るような環境がいいと言う人もいました。クリの木には実がたくさんついていて、男性の参加者が木を揺らすと青いイガが落ちました。中には白い実が入っていました。近くにはタヌキノカミソリが咲いていて、花びらに筋の入らないナツズイセンとの違いが確認されました。



ナンバンギセル



まだ白いクリの実



タヌキノカミソリ

バッタの仲間も多く見つかりました。ショウリョウバッタやオンブバッタのほかに背中にイボのあるイボバッタ、胸の両側にトゲのあるトゲヒシバッタ、クビキリギスやツチイナゴなどが子どもたちによって捕らえられました。ササキリの仲間はその場ではオナガササキリと言われましたが、のちにホシササキリとわかりました。



イボバッタ



トゲヒシバッタ



ホシササキリ

平和公園での観察項目(観察順): オオスズメバチ,ヒメクグ,ナガコガネグモ,イセノナミマイマイ,ジョロウグモ,シマスズメノヒエ,ナナホシテントウ,ヌマガエル,ヒメウラナミジャンノメ,コナラのドングリ,ドングリの中の虫の卵,ショウリョウバッタ,イボバッタ,クビキリギス,キタテハ,サトキマダラヒカゲ,アカホシテントウ,ツチイナゴの幼虫,ツツレサセコオロギ,ウスバキトンボ,オオシオカラトンボの顔,オンブバッタ,キタキチヨウ,ミソハギ,ヨモギエダシャク,エンマコオロギ,シロバナサクラタデ,ジュズダマ,ミノムシ,カニグモ,アメリカカタカサブドウ,ミント,ツクツクボウシの抜け殻,ツククサ,カマキリ,メイガの幼虫?,ヒメタイコウチ,イオウイロハシリグモ,ミスワラビ,シロバナマンジュシャゲ,ハゴロモの幼虫,タヌキノカミソリ,パンパスグラス,カナヘビ,ウリハムシ,キノコ,ナンバンギセル,ホシササキリ,トゲヒシバッタ,ツチイナゴ,キツネノマゴ,シロバナマンジュシャゲ,クリの実,ツマグロヒョウモン